

---

---

日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 107 号 2009 年 1 月 20 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

---

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2008 年度第 3 回研究例会のご案内	2
オプショナルツアーのご案内	5
図書館文化史研究 文献紹介 豊後レイコ著 田口瑛子・深井耀子編『あるライブラリアンの記録 レファレンス・CIE・アメリカンセンター・司書講習』 (阪田 蓉子)	6
日本図書館文化史研究会 2009 年度第 1 回研究例会のご案内	8
『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領の改訂について	9
『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領 (案)	
『図書館文化史研究』査読内規 (案)	
『図書館文化史研究』書評掲載にあたってのガイドライン (案)	
日本図書館文化史研究会 2008 年度第 2 回例会報告	14
運営委員会通信	15
事務局だより	16
25 周年記念事業寄附金ありがとうございます	
会員動向	

日本図書館文化史研究会

2008年度第3回研究例会のご案内

2008年度第3回の研究例会は、はこだて外国人居留地研究会との共催で、下記のように開催します。また、例会翌日にはオプションツアーを計画しました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 時 2009年3月20日(金・祝) 14時～16時50分
- 場 所 函館市中央図書館  
函館市五稜郭町26番1号 (<http://www.lib-hkd.jp/>)
- 交 通 函館バス「中央図書館前」下車後すぐ  
市電五稜郭公園前電停下車、徒歩15分  
◆ 函館市中央図書館の位置等は、4ページの地図をご参照ください。 (<http://www.lib-hkd.jp/shisetsu/center.html>)
- 参加費 1,000円
- 申込方法 事前申込制とします。当日参加はご遠慮ください。  
次の事項を明記して、下記までに、はがき、ファックス、または電子メールにてお申し込みください。  
◆ 氏名(ふりがな)、所属、オプションツアー参加の有無
- 申込先: 〒321-3295 宇都宮市竹下町908  
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
  
- 申込締切 3月10日(必着) でお願ひします。
- プログラム  
13:30 受付開始  
14:00 開会挨拶  
14:10-14:40 発表1 兔内勇津流  
14:50-15:20 発表2 藤島 隆  
15:30-16:00 発表3 谷 暎子  
16:10-16:50 「岡田健蔵を語る」  
岡田弘子氏へのインタビュー  
司 会: 梅澤幸平(滋賀県審議員)  
聞き手: 中山公子(函館市中央図書館長)  
◆ 岡田氏のご体調などによって、中止となる場合があります。あらかじめご承知おきください。
  
- 宿泊などの手配は、各自お願ひします。

## 発表要旨

### 【発表 1】

- 発表者

**兎内勇津流**（とない・ゆずる 北海道大学スラブ研究センター）

- 発表題名

イワン・マホフ「ロシアのいろは」をめぐって

- 発表要旨

幕末の 1861 年にイワン・マホフが箱館で製作した、ロシア語初歩の小冊子「ロシアのいろは」は、刊行年が明示された北海道最初の出版物である。ロシア領事館付き司祭に伴って来箱したマホフがこれを製作した状況について、当時の『海事論集』に掲載された記事等を材料に検討する。

### 【発表 2】

- 発表者

**藤島 隆**（ふじしま・たかし 北海学園大学）

- 発表題名

岡田健蔵と二人の図書館員

- 発表要旨

はじめに、北海道の図書館史を調べるようになった経緯、ならびに岡田健蔵との出会いからお話する。

岡田健蔵の生涯については、これまでいくつか紹介されたものがあるが、本発表では坂本龍三先生の著書『岡田健蔵伝』をもとに、私なりに岡田の業績を検証することにしたい。同時に、岡田を支えた二人の図書館員、佐藤真と大垣友雄についても紹介する。

### 【発表 3】

- 発表者

**谷 暎子**（たに・えいこ 日本児童文学学会北海道支部）

- 発表題名

函館図書館（私立、市立）の児童サービスと「罹災児童同情雑誌・図書」

- 発表要旨

私立函館図書館は、明治 42（1909）年の開設当初から児童サービスを行い、昭和 3（1928）年市立函館図書館にも引き継がれていた。しかし、函館図書館児童サービスについては、これまで調査・研究されてこなかった。

本発表では昭和 9 年の函館大火の際、岡田健蔵の呼びかけに応じて全国各地から贈られた「罹災児童同情雑誌・図書」を中心に函館図書館の児童サービスについて考察したい。



## オプションツアーのご案内

上記第3回例会の翌日に、函館市図書館・旧館の見学会を行います。あわせてのご参加を期待します。

1. 日 時： 2008年3月21日（土） 午前10時～12時
2. 場 所： 函館市図書館・旧本館  
函館市青柳町17番地 函館公園内  
市電：青柳町電停前下車 徒歩3分  
函館バス：函館公園前下車 徒歩1分

([http://www.hakodate-jts-kosya.jp/p\\_hakodate.html#p\\_hakodate](http://www.hakodate-jts-kosya.jp/p_hakodate.html#p_hakodate))

- 集合時間・集合場所等の詳細については、オプションツアー参加申込者に別途ご連絡します。
- 旧館は現在暖房が入っておりませんので、ご注意ください。「完全装備」でご参加ください。



【図書館文化史研究 文献紹介】

豊後レイコ著『あるライブラリアンの記録 レファレンス・CIE・アメリカンセンター・司書講習』 田口瑛子・深井耀子編 女性図書館職研究会 2008

深井さんと田口さんがまた、興味深い仕事をなさった。お二人ともに女性図書館員に関心を抱かれ、論文を書き、翻訳書を出されるなど、そのご活躍ぶりは周知のことである。これに加えて、このたび日本の図書館員の紹介をしてくださったことは、誠に嬉しい限りである。外国の女性たちの活躍ぶりを知るにつけ、わが国ではどうなのだろうといった思いがあった。そういった思いが通じた、というより、当然、多くの人が抱いていたこの共通の思いを女性図書館職研究会が適確に掬いとってくださったのである。快挙である。

本書の主人公の紹介が後になってしまったが、豊後レイコさんは、1948年から1984年まで（5年の間隙があったとのこと）、CIE図書館の頃から現在のアメリカンセンターのレファレンス資料室に至る時代を、勤務されていた。筆者も関西在住の頃、FLINT（女性と図書館・ネットワーク）など研究会等とともに学ばせていただく機会があったのだが、深くおつきあいする間もなく、時が過ぎてしまった。

今回、本書を通して、CIE図書館のこと、大阪アメリカ文化センターそしてアメリカンセンターにいたる過程、そこで働くということ、占領下の日本と日米の関係など、図書館という有機体を軸に、戦後の時代の風、そこで懸命に生き抜いた人の息吹を感じ、より豊後さんに近づくことができた、と感じられた。同時に、豊後さんの専門職としての生き方を通じて、戦後の日本の図書館の歴史を築き、支えた諸先輩ことに女性たちの姿勢を思い描くことができたのであった。

詳細は、本書に譲るとして、女性図書館職研究会について、深井さんは、「図書館職女性の自己形成に焦点をあてた研究をめざしている」と記しておられ、また、田口さんは「日本各地でこのような取り組みが同時多発的に増えてくれれば素晴らしい。・・・図書館ヒズストーリー（history）の交流も大歓迎である。このような積み重ねが図書館史研究に新側面を展開するものと期待する」と述べておられる。このような課題に取り組んでおられるお二人に敬意を表するとともに今後のますますの活動を期待したい。

本書は非売品ですが、田口瑛子さんに振込みをすれば、お送りいただけるということです。

田口瑛子さん

¥ 1,000.-

必要記入事項 住所、氏名、「豊後冊子送れ」（田口さんの表現です）  
あわせてお薦めの本が出版されました。

豊後レイコ著『八八歳レイコの軌跡 原子野・図書館・エルダーホステル』  
ドメス出版 2008 定価：本体 2,400 円＋税

本書執筆の契機となったのが『あるライブラリアンの記録』だったそうです。豊後さんとは、上記 FLINT の会を通じて、親しくさせていただいたのですが、職業人と家庭の主婦そして母親の顔を持っておられ、本書にも記されているように、通勤の途中で徐々に切り替えられたとのこと、そして私が存じ上げているのは、当然ライブラリアンとしての豊後さんのみでした。

本書を通じて、第二次大戦後に自由と平和を旗印に教育を受けた先輩たちの生きてこられた道程、そしてこの時代の息吹を受けた我々（少し後輩になるのですが）にとって、共通の思いを抱くことが少なくありませんでした。とはいえ、さらりと実用英語検定試験や通訳案内業の試験などに挑戦し合格されたその才能は秀でておられ、この時代の代表格のおひとりだと言えましょう。加えて、先に紹介した書および本書を読んで痛感したのは、何よりもその記録力と記憶力です。写真や資料の保存力そして、日常つけておられた日誌にその時々思いや考えが記されており、それが今回の「軌跡」を描く基礎となっていることです。

戦後も早 50 年あまりが過ぎ、戦後というには遠い過去の時代になってしまいました。そこで図書館員や研究者そして同時代を生きてきた人々に限らず、若い世代の方たちにぜひ、本書を読んでいただき、原爆のこと、妹さんのこと、戦争について考える機会としていただきたいと思います。考えた次第です。

退職後エルダーホステルの活動など、新たな働きをなさったことも中高齢者にとって、新しい目標のもとに歩もうという勇気をいただけることとなりました。誰もが豊後さんのような輝かしい歩みをするにはできないと思いますが、ひとりひとりができる範囲で「世のため、人のため」に動くことはできるのだという確信を得ることができました。

さらに本書を記された第二の動機「どの場所においても、戦争はあの時代の人々の人生を変えました。その記録を戦争を知らない人たちが読んで、日常生活にひそむ「隠れた危険」に敏感になっていただけたら、・・・」、このことにも深い共感を覚えました。これは終戦直後の時代に育った私たちにも課せられた使命のひとつであると痛感したことを本書紹介の締め言葉とさせていただきます。と思います。

阪田蓉子（明治大学）

## 『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。  
今後ニューズレターでは、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報して行きたいと思えます。会員・非会員を問わず、関連業績などを事務局までご連絡ください。皆さまのご協力をお願いします。

日本図書館文化史研究会

2009年度第1回研究例会のご案内

2009年度第1回の研究例会を、おおむね下記のように実施することになりました。多くの方の参加を期待します。

なお、会場、例会内容などの詳細につきましては、決定次第研究会のウェブサイトに掲載します。また『ニューズレター』次号でご案内申し上げます。

記

- 日 程： 2009年5月16日（土）午後
- 会 場： ドーンセンター（大阪府立総合女性センター）を予定  
大阪市中央区大手前1丁目3番49号  
<http://www.dawncenter.or.jp/top/index.jsp>
- 交 通： 京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を  
通って1番出口より東へ約350m  
地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m  
JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り  
沿いに西へ約550m  
<http://www.dawncenter.or.jp/shisetsu/map.html>
- 内 容： CIE図書館旧職員に聞く
- ゲ ス ト： 豊後レイコ氏、川上繁治氏
- 参 加 費： 1,000円
- 申込締切： 2009年5月10日（必着）

※ ゲストのご紹介

豊後レイコ氏については、6～7ページの阪田代表による文献紹介に掲載されている、豊後氏の著作をご覧ください。

川上繁治氏の略歴は、次の通りです。

1930年生まれ

1949-52年 連合軍総司令部民間情報局・長崎CIE図書館（雑誌室）

1952-59年 長崎アメリカ文化センター（主任司書）

1959-91年 福岡アメリカ文化センター（主任司書）

1991-03年 福岡インターナショナルスクール（図書室責任者。図書室は彼の名をとって KAWAKAMI Library と呼ばれる）



## 『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』の改訂について

運営委員会では、機関誌『図書館文化史研究』の編集体制等の見直しを進めています。現在の『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』の内容を一部改め、下記のような改訂案を策定しました。

また、あわせて投稿原稿の審査に関して『『図書館文化史研究』査読内規(案)』(12～13 ページ)、書評の掲載に関して『『図書館文化史研究』書評掲載にあたってのガイドライン(案)』(13 ページ)を新たに作成しました。

この3案について、会員の皆さまのご意見などをお寄せください。皆さまからのご提案などを参考に最終案を作り、9月開催予定の2009年度会員総会に諮りたいと考えます。

3案についてとくに問題がない場合、『図書館文化史研究』27号(2009年12月末日投稿締切、2010年発行予定)から適用することを予定しています。

## 『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領(案)

### 応募資格等

1. 日本図書館文化史研究会会員は投稿することができる。
2. 応募原稿は未発表のものに限る。ただし口頭で発表し、これをまとめたものは除く。
3. 掲載原稿の著作権は、本研究会に帰属する。ただし著者は、本会に連絡して、転載することができる。

### 応募原稿等

4. 原稿は完全原稿とする。ワープロ等を使用する場合、A4用紙(縦位置)、1行40字×40行・横書きの書式に設定する。手書きの場合は400字詰(20字×20行)原稿用紙を用いる。
5. 枚数制限は特に設けないが、長文の場合2回以上の分載とすることがある。
6. 図版は占有面積1ページ分を400字詰原稿用紙3枚の割合で換算し、そのまま版下として使用できるよう鮮明なものを提出する。
7. 原稿はMS-DOS標準テキストによるワープロ原稿が望ましい。
8. 標題(外国語併記)、著者名(ローマ字併記)、著者の所属機関名、原稿の区分、および連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)を記入した別紙を添付する。

9. 原稿本文の冒頭に原稿の区分、標題、250字程度の和文抄録を記載する。

### 原稿の提出

10. 原稿はコピーを含め2部を提出する。なお、投稿原稿は返却しない。  
 11. 原稿は書留により別記編集委員会に郵送する。ワープロ原稿の場合、掲載が決定次第、電子データを添付ファイルで提出する。  
 12. 原稿の締切は、毎年12月末日（必着）とする。

### 編集委員会

13. 原稿の採否は編集委員会が決定する。  
 14. 論文と研究ノートは、別に定める査読内規に基づく審査を経て、編集委員会が採否を決定する。  
 15. 書評の掲載については、別に定める書評掲載にあたってのガイドラインによる。  
 16. 編集委員会は原稿の内容・表現等について、著者に修正・書き直しを求めることがある。また、編集委員会で用字・用語等について、修正・統一をすることがある。

### 校正・抜刷

17. 著者校正は再校までとする。その際、字句の修正以外は原則として認めない。  
 18. 著者には抜刷20部を進呈する。

### 体裁・表記

19. 原稿の執筆は以下の要領による。
- ① 本文の見出し区分は、原則としてポイントシステムを使用し、次のように表記する。
    1. \_\_\_\_\_
    - 1.1. \_\_\_\_\_
    - 1.1.1. \_\_\_\_\_
  - ② 句読点は「,」「。」を用い、各1字分をとる。その他の記号類も各1字分をとるが、点線（……）・ダッシュ（—）は各2字分をとる。
  - ③ 数字は引用文、および漢語の一部となっている場合を除き半角アラビア数字を用いる。
  - ④ 外国語は慣用的呼称をカタカナで表記し、必要に応じて原綴を（ ）に記す。手書き原稿の欧文文字の大文字は、1マス1字、小文字は1マス2字をあてる。

- ⑤ 西暦年以外の紀年を使用するときは、必要に応じて西暦年を（ ）に入れて併記する。
- ⑥ 本文中の引用文献のタイトルは、欧語の場合は斜体で、手書き原稿はアンダーラインで示し、それ以外は『 』に入れる。
- ⑦ 本文中の論文等のタイトルは、欧文の場合は“ ”に入れ、それ以外は「 」に入れる。
- ⑧ 本文中の引用は、「 」、または“ ”に入れる。長文の場合は行を改め、本文より2字下げて記す。
- ⑨ 注は1)、2)のように通し番号を付け、全文の末尾にまとめる。その際文献の記載については、原則として以下のように記載する。

[雑誌論文からの引用]

1) 渡辺重夫「国民の権利としての図書館利用」『図書館学会年報』Vol.30, No.2, 1984.6, p. 55-56.

2) Harris, Michael H. “The dialectic of defeat : antimonies in research in library and information science,” *Library Trends*. Vol.34, No.3, 1986, p.515-531.

[図書からの引用]

3) 永末十四雄『日本公共図書館の形成』日本図書館協会, 1984, p.352-353.

4) Newhouse, Joseph P. and Arthur J. Alexander. *An Economic Analysis of Public Library Services*. Lexington, D.C. Heath Co., 1972, p.120-121.

[インターネット上の情報]

5) 石村恵子「電子図書館と著作権」『つくばね』[オンライン] Vol. 23, No. 4, 1998.4 [引用日: 1998-09-07]

<URL:<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/tsukubane/2304/ishinura.html>>

6) International Council on Archives. *ISAD(G) : General International Standard Archival Description* [online]. Ottawa, ICA, 1994[引用日: 1998-09-07] <URL:<http://www.archives.ca/ica/isad.html>>

原稿の送付先

〒101-8301

千代田区神田駿河台 1-1 明治大学司書・司書教諭課程

日本図書館文化史研究会

## 『図書館文化史研究』査読内規（案）

### ○ 原稿の区分

原稿の種類は、論文、研究ノート、書評、資料などとする。

「論文」とは、独創的で水準が高いと認められる、図書館文化史研究の原著論文をいう。

「研究ノート」は、「論文」に準ずる内容・分量の原稿をいう。

### ○ 査読担当

編集委員会は、原稿の内容・種類によって査読担当者を決定し、依頼する。

論文、研究ノートは2名の査読担当者によって審査を行なう。

その他の原稿は編集委員会が審査を行なう。

査読担当者の氏名は公表しない。

### ○ 審査結果

審査結果は以下の4段階で示す。

- ① 掲載可： 提出原稿のまま掲載
- ② 一部修正の上掲載： 査読者の指摘に応じた軽微な修正の上で掲載が可能なもの。修正原稿について、査読者による再査読は行なわず、編集委員会が原稿を確認する。
- ③ 再審査： 大幅な加筆・修正が必要で、短時間での書き直しが困難なもの。修正原稿について、査読者に再査読を依頼する。
- ④ 掲載不可

### ○ 査読の回答

査読担当者は、以下のような観点から簡潔、かつ具体的に見解をまとめ、編集委員会に提出する。

#### 1. 概評

全体の構成が適切か

標題が妥当か

研究目的が明確か

先行研究を適切にふまえているか

研究方法が適切か

#### 2. 内容

図書館文化史研究上の意義はあるか

新たな視点・知見を示しているか

#### 3. 表記

『『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』に準拠した原稿か

誤字・脱字はないか

その他、文章表現や用語が適切か

○ 編集委員会

編集委員会は、査読担当者からの審査結果を総合的に判断して、その結果を投稿者に通知する。

編集委員会は、上記にあわせて査読担当者からの回答を取りまとめ、投稿者に伝達する。

査読担当者の判定や見解が大きく隔たり、編集委員会として判断が困難な場合、別の査読者に審査を依頼する。

査読結果に対して、投稿者から質問等があった場合、必要に応じて査読担当者とも合議の上、投稿者に回答する。

○ 査読に際しての留意点

匿名性の確保、プライバシーの保護に留意する

## 『図書館文化史研究』書評掲載にあたってのガイドライン（案）

1. 書評の対象は、原則として会員の関与した文献とする。ただし会員の関わっていない文献であっても、研究上看過できない研究業績はこの限りでない。
2. 書評の対象は、原則として前年4月から当年3月までの1年間に公表された文献とする。ただし海外で刊行された文献は、この限りでない。
3. 会員は書評対象としてふさわしい文献とその評者を、編集委員会へ推薦する。推薦については、自薦・他薦を問わない。
4. 推薦の際には、その理由を簡潔に記した文書を添える。また、推薦の締め切りは当年7月31日（必着）とする。
5. 編集委員会は、会員からの推薦に基づき、書評対象文献と評者の選定を行う。
6. 評者は、編集委員会からの委嘱により書評を執筆する。書評の執筆は、別に定める「『図書館文化史』投稿規定・執筆要領」に準拠する。また、原稿提出の締め切りは、毎年12月31日（必着）とする。
7. 書評原稿の分量は、8,000から1万字程度が望ましい。
8. 編集委員会は、提出された書評原稿について、別に定める「『図書館文化史研究』査読要領」に基づき審査を行う。
9. 書評に対する著者からのコメントを受け付ける。

日本図書館文化史研究会  
2008年度第2回研究例会報告

2008年12月20日、2008年度第2回研究例会が、明治大学司書・司書教諭課程室を会場に開催されました。参加者は14名でした。なお、発表のレジュメをご希望の方は、事務局までお申し込みください。

○ 発表者

藤原 孝一（藤原建築アトリエ）

○ 発表題名

恩師 鬼頭梓の図書館

○ 発表要旨

私の恩師 鬼頭梓が今年8月20日、満82歳で永眠しました。

鬼頭は大学卒業後独立するまで仕え戦後モダニズムの旗手であった前川国男の全てを継承し、幸いにも30を超える大学と公共図書館の設計に関わりました。

日本の開架の黎明期であり、鬼頭事務所のデビュー作となった「東京経済大学図書館」他代表的な幾つかの手法や時代背景を見て頂きました。

また、鬼頭は会長を2期勤めた建築家協会を通して、建築家のとるべき倫理を説き、真のクリスチャンでもありました。

それら全てで、鬼頭の思想は「人」を基盤としたものであり、時代の潮流に些かも流されることはありませんでした。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回（6月頃、12月頃、3月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め1件1時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

## 運営委員会通信

### ■■ 次回運営委員会について ■■

通常、運営委員会は、研究集会・研究例会と同所・同日に開催しますが、次回の場合、定例の研究例会とは別に運営委員会を行うこととなります。

次回運営委員会は、3月頃明治大学司書・司書教諭課程室（アカデミーコモン 8階）で開催予定です。開催日時が決定次第、研究会のウェブサイトでお知らせします。本研究会の運営に関心のある方は、是非ともご参加ください。アカデミーコモンの位置、交通等は16ページ掲載の地図をご参照ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 内 容
1. 25周年記念事業剰余金の使途について
  2. 2008年度決算について
  3. 2008年度第3回研究例会決算について
  4. 2009年度第1回研究例会について
  5. 2009年度研究集会・総会について
  6. 2009年度事業計画・予算について

ほか

### ■■ 前回運営委員会の報告 ■■

実施日：2008年12月20日  
場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 2008年度第3回研究例会について
2. 2008年度研究集会・総会決算について
3. 文部科学大臣、日本図書館協会への「要望書」について
4. 『『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』の見直し等について
5. 25周年記念事業剰余金の使途について
6. 『図書館人物伝』人名索引について
7. 2009年度第1回研究例会について
8. 2009年度研究集会・総会について
9. 会員動向
10. 次回運営委員会について

ほか

## 事務局だより

### ■ ■ 25周年記念事業剰余金等の用途について ■ ■

日外アソシエーツ社と研究会の間で、『図書館人物伝』刊行に関する出版契約が正式に締結され、12月1日に印税の送金を受けました。

運営委員会では、この印税と25周年事業剰余金とをあわせて、会員の研究を奨励する制度を創設する方向で、検討を進めています。会員の皆さまのご意見・ご提案をお待ちしています。

### ■ ■ 会費納入のお願い ■ ■

年会費をまだ納入されていない方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙と会費納入のお願いの文書を同封しました。ご送金ください。

### ■ ■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■ ■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、あるいは封筒貼付の宛名ラベルの記載が不正確な場合、早めに事務局までご連絡ください。

